平成30年度（令和元年度実施）　施策評価表

1　施策No.	7-2-1		
2　地域づくりの方向	魅力と活力にあふれるにぎわいのまち		
3　政策	観光によるにぎわいの創出		
4　施策	観光資源の発掘と活用【重点】		
5　評価担当部	文化商工部		
6　施策関連課	文化観光課	庶務課	文化デザイン課
7　評価者	文化商工部長		

8　施策の目標	区民や来街者が、国際アート・カルチャー都市豊島区を楽しめるような回遊ルート設定等、新たな観光資源を発掘します。 ソメイヨシノ発祥の地、トキワ荘、池袋モンパルナス、ふくろう等、豊島区のオンリーワンブランドの魅力を活用します。 特色あるグルメ、ショッピング等、豊島区滞在時の魅力を創出します。
9　施策の現状と課題	ソメイヨシノ発祥の地、トキワ荘、池袋モンパルナス、ふくろう等豊島区には多くの観光資源があり、様々なイベントも開催されているが、全国的に認知されている数はまだ少ないのが現状である。豊島区が誇るオンリーワンブランドの魅力をさらに磨き上げていくためには、東アジア文化都市、東京オリンピック・パラリンピックの開催を好機として、ハレザ池袋、4つの公園、（仮称）マンガの聖地としまミュージアムの整備と合わせ、イケバスの運行など回遊性を高める取組みを実施し、国際アート・カルチャー都市の集大成として、ハード整備とソフト整備を組み合わせた施策を展開していく必要がある。
10　施策の実現に影響を及ぼす環境の変化（法改正、社会状況等）	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、外国人旅行者数は右肩上がりで伸びている。それまでの間、豊島新時代に向けた都市づくりが加速する。2019年には池袋西口公園がリニューアルし、ハレザ池袋がプレオープンする。豊島区がこれまで積み上げてきた文化政策の集大成として、東アジア文化都市事業を実施する。2020年春には造幣局跡地の新公園がオープンし、夏には、ハレザ池袋がグランドオープンする。この機会を逃すことなく、外国人を含めた観光客をおもてなしする環境整備に努めていく必要がある。
11　今年度の施策の取組方針	歴史・文化資源の価値や魅力を広く区内外に発信するとともに、地域文化を生かした区民文化活動をまちづくりにつなげていく。 教育委員会（庶務課）だけではなく、区長部局（文化観光課・文化デザイン課・国際アートカルチャー都市推進室長・企画課・施設計画担当課長・財産運用課）等と庁舎内展示スペースの運用を含め、ふくろう・みみずく関連資料の取り扱い、豊島ふくろう・みみずく資料館の在り方について協議する。

12　投入コストの推移

費　目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費合計（千円）	50,137	83,311	338,016	49,930	49,930
うち一般財源分（千円）	46,207	69,000	142,471	37,537	37,537

13　施策の達成度を測る指標の推移

指標(1)	基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
「イベント等認知度」に対し、ふくろ祭り/東京よさこいを認知している回答の割合【%】		目標値					60
		実績値					
		達成率	—	—	—	—	—
		達成状況					
指標重要度の割合(%)	50	指標設定理由	豊島区の代表的なイベントであるふくろ祭り／東京よさこいの認知状況は、区内イベントの認知度を測る指標となるため				

指標(2)	基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
トキワ荘通りお休み処の来場者数【人】		目標値	18,000	19,750	21,500	23,250	25,000
		実績値	17,312	11,174	11,312		
		達成率	96.2%	56.6%	52.6%	—	—
		達成状況	B：相当程度達成	C：未達成	C：未達成		
指標重要度の割合(%)	50	指標設定理由	観光スポットのひとつであるトキワ荘通りお休み処の来場者数は、オンリーワンブランドの磨き上げ、区内外へのPR効果を測る指標となるため				

14　施策達成状況

平成30年度達成状況	52.6%
C：未達成	【達成状況分析】 「イベント等認知度」に対し、ふくろ祭り/東京よさこいを認知している回答の割合は、平成23年度に実施した「来街者動向調査」に基づくものであるが、以後、調査を実施しておらず、効果測定ができない状況である。 トキワ荘通りお休み処の来場者数については、トキワ荘ブランドをさらに発信し、令和元年度末にトキワ荘再現施設をオープンする本区にとって、重要な指標であり、トキワ荘再現施設オープン以降は、トキワ荘再現施設の来館者をはじめとした南長崎地域の来街者が目標値を達成するよう観光振興策も含めた検討を進めていく。 【指標重要度の割合の設定理由】 国際アート・カルチャー都市実現戦略の中でも、マンガ・アニメをはじめとしたサブカルチャーにもスポットを当てており、令和元年度末にオープンするトキワ荘再現施設周辺の観光振興策を具体的に検討し、南長崎地域の来街者増加を図っていくことは重要な課題となっている。 また、豊島区を代表するイベント　ふくろ祭り/東京よさこいの認知度については、豊島区の賑わいを象徴する池袋の賑わいに反映する数値であり、同様に重要な指標となるため。

15　施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	ソメイヨシノ、マンガの聖地トキワ荘、池袋モンパルナス、雑司が谷未来遺産、ふくろう等豊島区には多くの観光資源がある。東アジア文化都市の開催、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、豊島区は国際アート・カルチャー都市の集大成を迎えつつある。このとしまブランドにさらに磨きをかけ、国内外から多くの来街者を呼び込む好機を逸せず、インバウンド対応も踏まえ、豊島区の魅力をさらに効果的に発信していく必要がある。

平成30年度（令和元年度実施）　施策評価表

16　施策貢献度の考え方 （設定の根拠・理由）	【貢献度の設定根拠】上記15に記載したとおり、豊島区には多種多様な観光資源があり、この「としまブランド」にこれまで以上の磨きをかけることにより、さらなる観光振興を図ることが可能となる。「マンガ・アニメ」が東アジア文化都市開催の際の3本の柱の1つとなっており、トキワ荘のあったまち南長崎地域にトキワ荘再現施設を整備し、トキワ荘を後世に伝えていく拠点施設とすることは、地域住民及び区の悲願でもある。「としまブランド」の中でもトキワ荘再現を含むマンガ・アニメによるまちづくりは、今後の観光振興に与える影響が大きい。このような今後の豊島区の観光振興に与える影響がより大きい「としまブランド」を施策貢献度が大きい事業、既に、何らかの拠点があり、観光PRに貢献している事業を施策貢献度がふつう、計画策定事務を施策貢献度が低いとしたところである。
17　来年度の方針 （課題解決策や改善策、成果向上策について）	東アジア文化都市2019豊島が閉幕を迎え、（仮称）マンガの聖地としまミュージアムがオープンした後も、マンガ・アニメは国際アート・カルチャー都市をけん引する大きな原動力となる。マンガ・アニメの活用については、引き続き、施策のブラッシュアップを図り、多くの来街者を呼び込み、まちの回遊性を高める取組みを進めていく必要がある。 ふくろう・みみずく資料館についても、さらなる活用を図る。
18　新規・拡充事業の 効果や必要性	南長崎地域の回遊性を高めていくため、（仮称）マンガの聖地としまミュージアム開設、運営、マンガの聖地としま！モニュメントの整備、東長崎駅南口デジタルサイネージ、ゆかりの地看板設置等を確実に実施していく必要がある。 ふくろう・みみずく資料館（南池袋小学校）・本庁舎以外での展示要望があるため、展示台・展示パネルを制作し、展示場を整備する。

19　施策を構成する計画事業

事業整理番号	事業名		項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
0503-02	ソメイヨシノプロジェクト推進事業		事業費合計（千円）	6,419	7,949	13,675	6,489	6,489
			うち一般財源分（千円）	5,199	5,579	12,402	5,266	5,266
			現状評価	A：良好	A：良好	A：良好		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★		
	事業特性2	国・都補助 + 区上乗せ	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
0503-03	マンガ・アニメ等を活用した観光事業		事業費合計（千円）	5,285	15,112	28,248	20,548	20,548
			うち一般財源分（千円）	5,285	15,112	28,248	17,191	17,191
			現状評価	A：良好	A：良好	A：良好		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★		
	事業特性2	国・都補助 + 区上乗せ	今後の事業の方向性	S:拡充	A:現状維持	S:拡充		
0503-04	南長崎マンガランド事業		事業費合計（千円）	20,519	39,302	266,140	16,393	16,393
			うち一般財源分（千円）	18,174	27,726	72,214	8,580	8,580
			現状評価	A：良好	A：良好	A：良好		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★		
	事業特性2	国・都補助 + 区上乗せ	今後の事業の方向性	S:拡充	S:拡充	A:現状維持		
0502-05	新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館事業		事業費合計（千円）	6,850	7,850	8,700		
			うち一般財源分（千円）	6,850	7,850	8,700		
			現状評価	A：良好	A：良好	A：良好		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	—（再掲分）	—（再掲分）	—（再掲分）		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	一般事業(評価対象外)		
1301-07	豊島ふくろう・みみずく資料館の運営		事業費合計（千円）	4,513	4,596	8,753		
			うち一般財源分（千円）	4,148	4,231	8,407		
			現状評価	B：普通	B：普通	B：普通		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★	★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	S:拡充	B:改善・見直し	A:現状維持		
1301-21	雑司が谷未来遺産推進事業		事業費合計（千円）	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
			うち一般財源分（千円）	5,500	5,500	5,500	5,500	5,500
			現状評価	A：良好	A：良好	A：良好		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
0503-06	豊島区観光振興プラン推進事業		事業費合計（千円）	1,051	3,002	7,000	1,000	1,000
			うち一般財源分（千円）	1,051	3,002	7,000	1,000	1,000
			現状評価	A：良好	A：良好	A：良好		
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★	★	★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		

平成30年度（令和元年度実施）　施策評価表

1　施策No.	7-2-2		
2　地域づくりの方向	魅力と活力にあふれるにぎわいのまち		
3　政策	観光によるにぎわいの創出		
4　施策	魅力的な観光情報の発信		
5　評価担当部	文化商工部		
6　施策関連課	文化観光課		
7　評価者	文化商工部長		

8　施策の目標	ソメイヨシノ・トキワ荘などオンリーワンブランド資源の情報を始め、年間を通じた様々なイベントの魅力を国内外へ広めるため、受け手目線に立ったPR手段を講じます。 情報の多言語化の推進はもとより、情報関連事業者と連携し、最新の情報発信手段の開拓・活用を進め、PRをしていきます。
9　施策の現状と課題	○豊島区には、ソメイヨシノやトキワ荘、池袋モンパルナス、雑司が谷などの歴史的・文化的資源が多数ある。加えて、様々なイベントが通年で催されているが、これらの認知度はまだまだ低く、魅力を十分に伝えきれていない。 ○情報通信技術が発達し、観光情報が容易に収集可能な状況の中、区内観光スポットの認知度を高め来街者を増やすには、新たなメディアや情報伝達ツールの開拓と効果的な活用が求められている。 ○平成31年4月の宿泊旅行統計調査によると、東京都の客室稼働率は85.3%、ビジネスホテルの場合は89.4%、シティホテルの場合は89.6%と高水準であり、多くの人々が東京を訪れていることが読み取れる。このような状況下、政府は、東京オリンピック・パラリンピック開催年である2020年の訪日外国人旅行者数の目標値を4,000万人としている。
10　施策の実現に影響を及ぼす環境の変化（法改正、社会状況等）	○2019年の東アジア文化都市、新ホール・新区民センター、2020年には、ハレザ池袋、オリンピック・パラリンピック、その後も造幣局跡地再開発、池袋西口再開発と文化と魅力を備えた街づくりが継続的に行われる。 ○2018年以降、イベントのメイン会場である池袋西口公園の改修工事が予定されているため、短期的にはイベント来街者数に影響が見込まれる。 ○観光情報の発信方法は、ホームページだけではなくSNS等の活用も視野に入れる必要がある。
11　今年度の施策の取組方針	○豊島区の魅力を的確に発信し認知度を高めることで、イベント等に訪れる来街者数の増加を目指す。 ○関係者間の意見調整を図り、観光イベントを効果的かつ円滑に実施する。イベント実施を通じ、豊島区、並びに姉妹・友好・交流都市の魅力をアピールする。

12　投入コストの推移

費　目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費合計（千円）	60,885	49,058	52,731	52,731	52,731
うち一般財源分（千円）	59,558	47,865	52,521	52,521	52,521

13　施策の達成度を測る指標の推移

指標(1)　基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
区ホームページ月平均アクセス件数（観光）【件】	目標値	20000	22500	25000	27500	30000
	実績値	18460	10391	13446		
	達成率	92.3%	46.2%	53.8%	—	—
	達成状況	B:相当程度達成	C:未達成	C:未達成		
指標重要度の割合(%)	40	指標設定理由	アクセス件数は、受け手にとって魅力的な情報が掲載、発信されているとともに、豊島区の魅力が認知されていることを示す指標であるため			

指標(2)　基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
イベント延べ来場者数【人】	目標値	2240000	2250000	2260000	2270000	2280000
	実績値	2112580	2291370	2273031		
	達成率	94.3%	101.8%	100.6%	—	—
	達成状況	B:相当程度達成	A:達成	A:達成		
指標重要度の割合(%)	60	指標設定理由	イベント延べ来場者数は、効果的な情報発信の成果を示すとともに、豊島区の魅力が認知されていることを示す指標であるため			

14　施策達成状況

平成30年度達成状況	81.9%	【達成状況分析】
B:相当程度達成		入場者数の増加要因は、イベントに対する認知度向上によるところが大きいが、野外で開催されるものが多いため、天候による来場者数の増減は避けられない。
		【指標重要度の割合の設定理由】
		アクセス件数は、受け手にとって魅力的な情報が掲載、発信されているとともに、豊島区の魅力が認知されていることを示す指標である。一方、イベント延べ来場者数は、効果的な情報発信の成果と、区で行われるイベントの魅力が来訪者に認知されていることを示す指標であるため、指標重要度において、成果指標の割合を高く設定している。

15　施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	「池袋北口路上美術館事業」、「観光情報発信事業」、「観光イベント支援」、「雑司が谷情報ステーション管理運営事業」、いずれも活動・成果指標は良好な数字を残しており、魅力的な観光情報の発信に貢献している。

平成30年度（令和元年度実施）　施策評価表

16　施策貢献度の考え方 （設定の根拠・理由）	「観光イベント支援」は、ふくろ祭りのように地域と共に50年続くイベントを支援している面がある。そのため地域貢献度は高い。「雑司が谷情報ステーション管理運営事業」においては、「雑司が谷がやがやプロジェクト」が、平成26年度の日本ユネスコ協会連盟の未来遺産へ認定されている。また、平成28年度には、鬼子母神堂が国重要文化財指定を受けており、雑司が谷地域の観光・文化資源に注目が高まっている中、雑司が谷案内処が果たす役割は大きい。「観光情報の発信事業」においても外国人来街者の増加を踏まえインバウンドの対応も考慮したパンフレットやマップのデータ更新を行うなど、積極的な情報収集等に努め、時代のニーズに合わせた発信事業を行っていく必要がある。「池袋北口路上美術館事業」については、池袋北口線路沿いの壁が美観を損ねていたことから、写真パネルの展示や美観維持等を行っているが、他の事業に比べると貢献度は若干弱い。
17　来年度の方針 （課題解決策や改善策、 成果向上策について）	○オリンピック・パラリンピック開催年の2020年にはハレザ池袋が開設し、その後も造幣局跡地や池袋西口で再開発事業が行われる。まちづくりと連動した豊島区の新たな魅力を伝えるための情報発信を効果的に行い、来街者の増加につなげる努力を行っていく。 ○区内イベントの主要な会場である池袋西口公園が2019年に再オープンすることに伴い、新たな池袋西口公園で行われる観光イベントを効果的かつ円滑に実施するため、関係者間の意見調整等を丁寧に行うことが肝要である。
18　新規・拡充事業の 効果や必要性	魅力的な観光情報の発信には、周年イベント実施を支援するため予算を拡充するなど、イベント自体の魅力を後押しする必要がある。令和元年度は、ふくろ祭り後半に行われる「東京よさこい」が開催20周年を迎える。池袋西口公園で進められている改修工事の影響を最小限におさえるため、地域団体の意向を聞きながらイベントの魅力を損なわないよう協力していく必要がある。

19　施策を構成する計画事業

事業整理番号	事業名		項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
0503-07	池袋北口路上美術館事業		事業費合計（千円）	1,091	1,386	2,013	2,013	2,013
			うち一般財源分（千円）	1,091	1,386	2,003	2,003	2,003
			現状評価	A：良好	A：良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★	★	★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
0503-08	観光情報発信事業		事業費合計（千円）	1,614	1,245	1,432	1,432	1,432
			うち一般財源分（千円）	1,614	1,245	1,432	1,432	1,432
			現状評価	A：良好	A：良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
0504-09	観光イベント支援		事業費合計（千円）	42,876	37,735	40,935	40,935	40,935
			うち一般財源分（千円）	41,549	36,542	40,735	40,735	40,735
			現状評価	A：良好	A：良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★		
	事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		
0504-10	雑司が谷情報ステーション管理運営事業		事業費合計（千円）	15,304	8,692	8,351	8,351	8,351
			うち一般財源分（千円）	15,304	8,692	8,351	8,351	8,351
			現状評価	A：良好	A：良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		

平成30年度（令和元年度実施）　施策評価表

1　施策No.	7-2-3		
2　地域づくりの方向	魅力と活力にあふれるにぎわいのまち		
3　政策	観光によるにぎわいの創出		
4　施策	来街者の受入環境の整備		
5　評価担当部	文化商工部		
6　施策関連課	文化観光課		
7　評価者	文化商工部長		

8　施策の目標	新庁舎に導入したTOSHIMA Free Wi-Fiをはじめ、観光インフラの整備を行います。 一般社団法人豊島区観光協会と協力し、多言語対応や新たな情報発信の手段を構築する等、来街者満足度の向上を図ります。 平成32（2020）年東京オリンピック・パラリンピックに向け増加する外国人観光客に対応するため、観光ボランティアガイドの育成等の「国際アート・カルチャー都市」にふさわしい人材育成を積極的に支援します。
9　施策の現状と課題	○東京オリンピック・パラリンピック開催にむけ、観光庁の2020年訪日外国人旅行者数の目標値は4,000万人、東京都の2020年訪都外国人旅行者数の目標値は2,500万人としており、2018年の訪日外国人旅行者数は、3,119万人、訪都外国人旅行者数は、1,424万人となっている。 ○「令和元年版観光白書」によると、東京都の客室稼働率（平成30年）は80.3%と高い水準になっている。 ○区の独自の情報発信ツールであるTOSHIMA　Free Wi-Fiを、池袋駅周辺等に整備を進めていますが、現状の利用可能範囲は限られている。 ○区が推奨するTOSHIMA Free Wi-Fiの屋内外での利用可能範囲を拡大し、利便性を向上させることにより利用者の増加を図り、外国人旅行者の滞在満足度を向上させることが必要となっている。そのため、増加する外国人観光客に対するおもてなし環境整備のため、外国語対応が可能な観光ボランティアガイドの確保及び育成が求められている。 ○駅構内からの統一サインによる来街者の誘導が課題となっている。
10　施策の実現に影響を及ぼす環境の変化（法改正、社会状況等）	○平成32（2020）年東京オリンピック・パラリンピックに向けて増加する外国人観光客数 ○当区における東アジア文化都市事業（2019年）の開催、としま区民センターインフォメーションセンター開設、池袋西口公園インフォメーションカフェ開設、Hareza池袋オープン、4つの公園のオープンなど
11　今年度の施策の取組方針	○信頼の厚いシティガイド『Time　Out』の改訂増刷、web版の発行 ○ハレザ池袋、4つの公園、（仮称）マンガの聖地としまミュージアムオープンに合わせた観光案内サイン、wi-fi等のインフラ整備 ○来街者受け入れのためのボランティア人材のおもてなし意識の醸成 ○観光協会をはじめ、事業者、大学等との連携による推進体制の充実

12　投入コストの推移

費　目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業費合計（千円）	59,716	66,933	52,802	126,707	126,707
うち一般財源分（千円）	51,640	56,559	47,345	93,334	93,334

13　施策の達成度を測る指標の推移

指標(1)　基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
TOSHIMA　Free　Wi-Fi利用数【件】	目標値	150,000	820,000	832,000	979,000	1,028,000
	実績値	713,388	1,475,740	794,078		
	達成率	475.6%	180.0%	95.4%	—	—
	達成状況	S：目標超過達成	S：目標超過達成	B：相当程度達成		
指標重要度の割合(%) 60	指標設定理由	区の情報発信ツールであるTOSHIMA　Free　Wi-Fiが、現に利用されている状況を示す指標であるため。				

指標(2)　基本計画指標		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
外国語観光ボランティアガイド通訳・案内業務対応件数【人】	目標値	150	200	250	300	350
	実績値	150	128	175		
	達成率	100.0%	64.0%	70.0%	—	—
	達成状況	A：達成	C：未達成	B：相当程度達成		
指標重要度の割合(%) 40	指標設定理由	外国語観光ボランティアガイドの活動状況を示す指標であるため				

14　施策達成状況

平成30年度達成状況：85.3%

B：相当程度達成

【達成状況分析】

○TOSHIMA Free Wi-Fi利用数については、平成30年度のアクセスポイントの整備が5か所にとどまったこともあり、利用数は初めて目標値を下回った。
○外国語ボランティアガイドは、①イベントへの参加、②モデルコース案内、③街角案内の3つの活動を行い、モデルコース案内が本格実施となったことから実績が伸びた。

【指標重要度の割合の設定理由】

○TOSHIMA Free Wi-Fi利用数は、来街者の観光インフラの整備充実度と来街者の活用状況の指標となるから。
○外国語ボランティアガイドの活動状況は、外国人来訪者がより快適に滞在するための受入れ環境の充実につながる指標となることから。

15　施策を構成する事務事業評価を踏まえた分析	TOSHIMA Free Wi-Fi整備事業においては、主要駅、主要観光施設での利用範囲拡大を行っているが、利用者がより使いやすいサービス提供のための質的改善を行っていく必要がある（令和元年度にアプリレス連携開始）。 東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年にかけて、ハレザ池袋、4つの公園、（仮称）マンガの聖地としまミュージアムといった観光施設が続々とオープンする。まちの回遊性を高め、来街者を目的地まで適切に案内誘導する案内サインの整備を確実に行う必要がある。 外国人目線での観光案内冊子の発行、観光協会、インバウンド推進協力会とのさらなる連携によりインバウンド対応を強化していく必要がある。

平成30年度（令和元年度実施）　施策評価表

16　施策貢献度の考え方 （設定の根拠・理由）	国際アート・カルチャー都市構想実現戦略（国際戦略）において、インバウンド機能の強化における滞在環境の充実として、TOSHIMA Free Wi-Fiアクセスポイント整備をあげていることから★★★としている。観光振興事業において、観光協会をはじめ、観光産業団体等との連携による多言語対応による情報発信やボランティアガイドの育成に大きく貢献することから★★としている。観光案内標識整備推進事業について、ピクトグラムを活用した情報発信や、多言語による周辺地域情報提供に貢献しているものの、受入環境の整備として対象となる来街者数が限定されていることから★としている。
17　来年度の方針 （課題解決策や改善策、成果向上策について）	・2020年オリンピック・パラリンピック開催によるインバウンドの需要増は、本区の魅力を内外に広く発信する好機であるとともに、「国際アート・カルチャー都市」を目指す本区の根幹たる施策となっている。 ・また、本施策の展開はオリパラ終了後のレガシーとして、一時的な来街者の増加に留まらず、さらなる来街者増加等の好循環が期待できるため不可欠な投資といえる。 ・具体的には、「TOSHIMA　Free　Wi-Fi」事業を、今後は量的な充実から、より繋がりやすく利用しやすい質的な充実を図ることで、「利用者数の増加」という成果が得られるような工夫を行うとともに、外国語観光案内冊子の配布や街の変化に応じた観光案内サインの整備、ボランティアの育成と活動機会の検討など、観光協会、関係団体、企業等との連携などを総合的に進めることで、観光整備が図れるものである。 ・一方、観光協会とは、連携をより緊密にすることで、本区の地域資源を最大限に活かした、他都市との差別化を図る事業の展開などを早期に実現し、インバウンド事業の強化を図っていく。
18　新規・拡充事業の 効果や必要性	2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催時期を目途に、東アジア文化都市記念事業が完成を迎える。ハレザ池袋、4つの公園のオープン、イケバスの運行開始等街が大きく変わる時期を逃さず、観光案内サインの整備を進めていく必要がある。

19　施策を構成する計画事業

事業整理番号	事業名		項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
0503-11	インバウンド推進事業		事業費合計（千円）	21,907	29,904	13,850	12,676	12,676
			うち一般財源分（千円）	14,804	20,468	8,893	8,933	8,933
			現状評価	B：普通	B：普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★★	★★★	★★★		
	事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	S:拡充	A:現状維持	A:現状維持		
0503-12	観光案内標識整備推進事業		事業費合計（千円）	3,992	3,138	640	75,896	75,896
			うち一般財源分（千円）	3,019	2,200	640	46,516	46,516
			現状評価	B：普通	B：普通			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★	★	★		
	事業特性2	国・都補助	今後の事業の方向性	S:拡充	A:現状維持	A:現状維持		
0503-13	観光振興事業		事業費合計（千円）	33,817	33,891	38,312	38,135	38,135
			うち一般財源分（千円）	33,817	33,891	37,812	37,885	37,885
			現状評価	B：普通	A：良好			
	事業特性1	任意的事業	施策貢献度	★★	★★	★★		
	事業特性2	区単独	今後の事業の方向性	A:現状維持	A:現状維持	A:現状維持		